

KAIRINJUKU NEWS 開倫塾 1995年 10月号

- 読書に絶好の季節を迎えて -

開倫塾 塾長 林 明夫

### 1. はじめに

読書の秋。秋が深まってくる今頃から、新学期がスタートする4月上旬までの半年が絶好の読書の季節。自分の好きな本を思い切り読みすすめることをおすすめします。

ただ、せっかく読書をすすめるなら、心に残るような読み方を工夫することも、人生を豊に送る上では意味深いと思います。

そこで、今回は、読書の方法について考えてみましょう

### 2. 「書き抜き読書ノート」のすすめ

よい文学作品というのは、一つの文をじっとゆっくり読んでみると、「画像」(絵)が心の中に浮かんできます。次の文を読むと、また、「画像」(絵)が心に浮かんできます。三つ目の文も同様に「画像」(絵)が、心に浮かぶ。浮かんだ「画像」(絵)がどんどんつながり、動きはじめ、あたかも映画を見ているようになるのが名文といわれるものと思います。

このような「よい作品」を想像力をたくましくしてじっくり読み込むと、とても興味がつきないのが読書です。

ゆっくり声を出して読んでいると、とても響きがよく、読んでいてうっとりするほど気分がよくなるのも、よい作品の特長です。

一日にたとえ10分でもよいですから、気に入った作品を声を出して朗読なさを、おすすめします。

\* 小さなお子様をおもちの保護者の皆様は、是非、お子様が大好きな作品を何十回でも、いや何百回でも、ゆっくりと読んでおあげになることをおすすめします。お子様の心にしみこみ「人格の基(もと)」にまでなるのが、読み聞かせであるからです。

一冊本が読み終わりましたら、気に入った一行だけでもいいですから「書き抜き読書ノート」に筆記されることをおすすめします。少ししっかりしたノートなら何十年も使えます。たえず、読み返せば一生の宝物になるばかりかこのノートもまた、「人格の基(もと)」をつくりあげる道具の一つでもあります。小さなお子様のころから、是非、お試し下さい。

### 3. おわりに

「童話大賞」の募集が本年もまた、開始されました。他人様に読んで頂く作品が書けるようになることは自己表現の極地、人生の喜びになると思われます。練習のつもりでお気軽に、御応募下さいませよう。